

高等学校 令和8年度

教科

国語

科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

教科担当者：（1組：河上） （2組：川上） （3組：川上） （4組：川上） （5組：河上） （6組：河上）

使用教科書：（数研出版 論理国語）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
		語 ・ 聞	書 ・ 読					
1 学 期	弱いつながら	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。	○	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔I1ア〕 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。〔B11エ〕 文章の内容から読み取れる筆者の意図について粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査 I				○	○		1
	逆説/手の変幻	筆者の逆説的言説を理解したうえで、異なる事例を考え、論理的に説明する。	○	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔I1ア〕 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。〔I1ウ〕 「書くこと」において、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。〔A11ウ〕 「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。〔A11エ〕 文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 筆者の考えを粘り強く読み取り、学習課題に沿って自分の意見を適切に説明しようとしている。	○	○	○	12
	具体と抽象/「具体」から「抽象」へ	・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点がある具体的な事例を日常生活の中から考える。	○	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔I1イ〕 「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。〔B11オ〕 文章の内容を踏まえて、個人と社会の関係について粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査 II				○	○		1
2 学 期	言葉と創造/添削の思想	・「添削」「推敲」についての筆者の考えと、近代芸術の問題点の内容をとらえる。 ・「添削」の役割について理解する。	○	文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。〔I1ウ〕 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな視点から自分の考えを深めている。〔B11カ〕 筆者の意見を参考にしながら、積極的に根拠や具体例を用いて文章を構成し、学習課題に沿って自分の意見をまとめようとしている。	○	○	○	9
	定期考査 III				○	○		1

